

「ぐんまちゃん花火」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私が子どもの頃の花火大会は、丸い形の花火だけだった。正確には「丸」ではなく「球」で、どこから見ても丸く見える、あの花火だ。昨夜の北軽井沢の花火大会でも、このタイプが一番多かった。



この写真のように、青や赤の単色のものが多い。きっと大きさの割に、一番安価なのだろう。



これは「桜」。少し斜めになっているが、よく写真に写っていた。このタイプの花火は、立体的ではなく、平面的な展開をする。私の位置からは桜の形に見えたが、場所によっては、一本の棒状に見えただろう。それが、このタイプの花火の欠点とも言える。



同じ丸く見える花火でも、こんなタイプのものも見られた。トケイソウ、いや、クイズタイムショックって感じの楽しい花火だ。

最近の花火大会では、さまざまな形をした花火も見られるようになった。ハート型、土星型などは珍しくないが、今回はもっと変わったものが見られた。



そして、極め付けがこの花火。実は「ぐんまちゃん」である。さすがは群馬県下の花火大会。私は、一瞬で炸裂する花火の球の中に、どのように星(火薬)を仕組んだら、このような形が空中にできるのか・・・ということだ。何十発も実験するわけにもいかないだろうから、研究は非常に難しいのだろう。